

「ヒト原発性肝癌の網羅的遺伝子解析及び 18-F-FDG/PET-CT に基づく免疫微小環境の診断と人工知能 を活用した個別化医療への応用」に対するご協力をお願い

研究責任者 紅林 泰
研究機関名 慶應義塾大学医学部
所属 病理学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、近畿大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

この研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2010年1月1日～2023年12月31日の間に慶應義塾大学病院にて原発性肝癌に対する肝切除術を受けられた方。

2 研究課題名

承認番号 2022-6080

研究課題名 ヒト原発性肝癌の網羅的遺伝子解析及び 18-F-FDG/PET-CT に基づく
免疫微小環境の診断と人工知能を活用した個別化医療への応用

3 研究組織

研究代表機関
近畿大学医学部

研究代表者
教授 工藤 正俊

共同研究機関
京都大学
慶應義塾大学
国際医療福祉大学

研究責任者
教授 波多野 悦朗
専任講師 紅林 泰
医学部長 坂元 亨宇

国立がん研究センター	先端医療開発センター免疫トランスレーショナルリサーチ分野／研究所 腫瘍免疫研究分野 分野長 西川 博嘉
中京大学	教授 目加田 慶人
岡山大学病院	准教授 富田 秀太
旭川医科大学	学長 西川 祐司

4 本研究の目的、方法

<目的>

この研究では、原発性肝癌の病理所見、遺伝子変異情報、遺伝子発現情報、臨床検査データと、造影 CT・PET-CT を始めとする診断用画像所見の関係について調べることを目的としています。

<方法>

慶應義塾大学病院にて 2010 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日の間に原発性肝癌に対する肝切除術を受けた方を対象として、病理診断後の残余検体（パラフィン包埋検体、凍結組織検体）、診断用画像データならびに診療情報を研究に使用させていただきます。病理診断後の残余検体、診断用画像データ、臨床検査データならびに診療情報の解析は、個人が特定されないように完全に匿名化された後に、解析を担当する共同研究機関（近畿大学医学部）に送付して行います。

5 協力をお願いする内容

病理診断後の残余検体（パラフィン包埋検体、凍結組織検体）を本研究のために再使用させていただきます。また、治療経過と比較するために、当該疾患に関する患者さんの診療記録、検査結果ならびに診断用画像データを照会させていただきます。病理診断後の残余検体、診断用画像データ、臨床検査データならびに診療情報の解析は、個人が特定されないように完全に匿名化された後に、解析を担当する共同研究機関（近畿大学医学部）に送付して行います。研究に協力いただく際の金銭的負担や侵襲は一切ありません。

協力によって得られた研究の成果は、氏名など個人を特定する情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌およびデータベース上で公に発表されます。本研究の結果として知的財産権が生じる可能性があります。その権利は国、研究機関、民間企業を含む研究機関および研究遂行者などに属し、研究協力者はこの知的財産権を持っているとすることができません。また、その知的財産権をもととして経済的利益が生じる可能性があります。研究協力者はこれについても権利をもちません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日 ～ 2030 年 12 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

病理診断後の残余検体、診断用画像データ、臨床検査データならびに診療情報の解析は、個人が特定されないように完全に匿名化された後に、解析を担当する共同研究機関（近畿大学医学部）に送付して行います。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

連絡先：病理学教室 紅林 泰

電話番号 03-5363-3764（平日 9 時 ～ 16 時）

以上